



コアリサイクラー 取扱説明書

モデル 291 99 01

作成日 2015 年 11 月 3 日

はじめに

本書を入念にお読みください。本機の使用、整備方法を熟知してケガや本機の破損を防いでください。本機付属の取扱説明書、安全マークは多言語で提供可能です(販売店に問い合わせください)。

本書は永続的に機械に付属させてください。もし機械を第三者に売り渡した場合、本書も付属させてください。

本書はメトリックを使用しています。適切な部品とネジにのみ使用してください。他のレンチではインチ単位のネジを使用してください。

“右左”の表示は進行方向に向かって場合を意味しております。

“テクニカルデータ”の項目で製品番号を入力してください。詳細が正しく記録されていることを確認してください。販売店も同様に部品注文を受ける際にこの番号を必要とします。本機とは離れた場所に別に製品番号を保管しておくことを推奨します。

本機運搬前に、販売店は最適な稼働をするための出荷前点検を実施します。

本機はスポーツフィールドまたはゴルフ場向けに設計されておりコアの収集に使用します。サッチのようなコアの有機成分は砂と分離され、ホッパーに収集されます。

本機を間違った使い方をするとこの効果が得られません。製造元は誤用による本機の破損やケガに対しては責任を負いません。これらの危険性は使用者によって生じます。製造元によって規定された稼働、整備、修理を必ず遵守してください。

予測できる誤った使用法。人やモノを運搬するためには使用しないでください。本機は舗装された地表、スポーツフィールド、公園のような一般的な芝、人工芝には向きません。

本機は本機の特性を熟知し、安全規制を把握した人に整備、修理を任せてください。また、常識として認知される一般的な安全指針を遵守してください。

製造元の許可なしに本機を改造したことに起因する故障、不具合は保証の対象外となります。

目次

- 1.0 安全指針
 - 1.1 安全ラベル
 - 1.2 安全装置
 - 1.3 安全指針
- 2.0 輸送
 - 2.1 概要
 - 2.2 本機の輸送
 - 2.3 本機の牽引
- 3.0 はじめての作業前に
 - 3.1 概要
 - 3.2 コントロール装置
 - 3.3 ブラシの調整
 - 3.4 安全ラッチ
 - 3.5 ドラムスクリーンの調整
 - 3.6 ドラムスクリーンの挿入
 - 3.7 エンジン駆動
- 4.0 オペレーション
 - 4.1 概要
 - 4.2 過熱部分
 - 4.3 本機の作業
 - 4.4 接続作業
 - 4.5 運転時注意
 - 4.6 安全な停止
 - 4.7 回収物の廃棄
 - 4.8 不具合とトラブルシューティング
- 5.0 メンテナンス
 - 5.1 概要
 - 5.2 整備と点検項目
 - 5.3 安全ロック機能(ホッパー上昇時)
 - 5.4 クリーニングフラップの取り外し
 - 5.5 本機の洗浄
 - 5.6 ドラムスクリーンの洗浄
 - 5.7 ブラシの調整
 - 5.8 スクレーパーの調整
 - 5.9 ハンドブレーキの調整
 - 5.10 バッテリーの点検、充電
 - 5.11 電気システム
 - 5.12 バッテリーの取り外し、フィッティング
 - 5.13 潤滑
 - 5.14 潤滑ポイント(週間)
 - 5.15 エンジンのオイル交換
 - 5.16 油圧オイルの交換
 - 5.17 油圧システムのメンテナンス
 - 5.18 ブラシの脱着
 - 5.19 ウィール、タイヤ
 - 5.20 分解/廃棄
 - 5.21 メーカー認定のない改造及び交換部品製造
- 6.0 仕様
 - 6.1 納入時状態
 - 6.2 付属品
- 7.0 仕様
 - 7.1 データー一覧
 - 7.2 締付トルク
 - 7.3 シリアルプレート

1.0 安全指針

警告マーク

このマークは本機や本書に表示されており、注意を払うよう書かれています。ケガの可能性があることを警告しています。事故防止規制と同様に推奨された安全指針に従ってください。



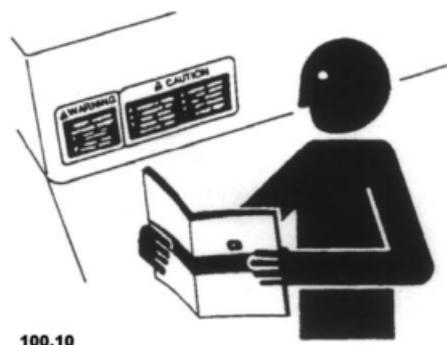
安全指標の遵守

取扱説明書または本機に表示された全ての安全指標を通読してください。警告マークは剥がれ落ちたりしないようにしてください。紛失したり損傷したマークは新しい物に取り換えてください。新しい機械や交換部品には適切な安全指標を供給します。代わりの警告マークは販売店で入手可能です。

作業前に本機の稼働方法と装置の操作方法を理解してください。本機の操作方法を把握していない人には操作させないでください。

本機を正常に運転できる状態にしてください。本機に無許可で修理を行った場合、機能、作業の正確さ、製品寿命を損なう可能性があります。

操作方法を理解できず、補助が必要な場合は販売店にお問い合わせください。



道路交通法の遵守

公道を使う場合は、地域が定める道路交通法を遵守してください。



保護服を着用

作業時は体に合った服を着用し、適切な安全器具を装着してください。

騒音の中で作業をし続けた場合、聴覚障害を起こす可能性がありますので、イヤーマフや耳栓で保護してください。

本機の安全な作業のため、操縦者は最大限の注意を払ってください。機械操作時はラジオを聞いたり、ヘッドフォンで音楽を聞いたりしないでください。



安全保護装置

安全保護装置は正確に作動する状態にし、適切な位置に装着してください。安全保護装置を取り外す前にエンジンを停止させ、可動箇所を遮断してください。可動箇所からは手、足、服を離してください。

回転ドライブシャフト

回転ドライブシャフトには最大限注意を払ってください。深刻なケガや死につながるおそれがあります。

全てのシャフト保護装置が適切に装着されており、ユニバーサルジョイントシャフトの外装管がフリーで回転するようにしてください。体に合った服を着用してください。

PTO 駆動の機械を接続、取り外し、調整、洗浄する前にエンジンを停止させ、全ての可動部品が止まるまで待ってください。



配線漏れの際は最大限の注意を払ってください

高圧の液体の漏れは肌を貫通して深刻なケガを招く恐れがあります。

配線を外す前に必ず減圧してください。システム内で再び圧力を上げる前に全ての配線結合箇所を漏れないことを確認してください。

液体が肌に浸透した場合、この種のケガの対処をよく知る医者に直ちに診察してもらってください。治療を受けない場合は深刻な症状になります。

この種のケガの処置に不慣れた医者は熟知した医療機関を探してください。



安全な機械とライトの使用

歩行者と衝突しないように気を付けてください。機器を搭載、牽引する際はトラクターをゆっくり動かしてください。自走機械は公道で危険を察知したら停止してください。背後に車が来ていないか頻りに確認し、旋回する場合は特に注意してください。手信号や指示器を使って交通の安全を確保してください。

ヘッドライト、警告ライト、指示器、その他の安全器具使用してください。本機が正常で安全に稼働するようにしてください。安全ライトは販売店で入手可能です。



高圧燃料近くでの過熱を避けてください

可燃性の高い蒸気が高圧液体ホースの近くで発する熱によって生じます。重度のやけどを負います。高圧液体ホースやその他の可燃性物質の近くで溶接トーチを使用したり、ハンダ付けを使用して熱を生じさせないでください。高圧ホースは直接火にあたって切れることがあります。



100.16

部品の溶接か過熱する前の注意事項

溶接は資格を有した者が行ってください。

毒ガスや粉塵の発生を防いでください。有毒ガスは溶接、ハンダ付け、溶接トーチの使用によって生じる熱によって塗装が熱せられると発生します。

全ての作業は屋外で換気された場所で行ってください。法規に従って塗装、溶接は廃棄してください。

部品の溶接や過熱をする前には塗装を剥がしてください：

- 塗装をサンドブラストやグラインダーで除去する際は粉塵が生じますので、吸い込まないようにしてください。このため、適切な呼吸保護装置を装着してください。
- 溶接前に溶剤、塗装剥剤を使用する場合、水や石鹼で溶接個所の汚れを洗いとしてください。溶接または加熱前に最低でも 15 分間はガスを拡散してください。



1.1 安全ラベル

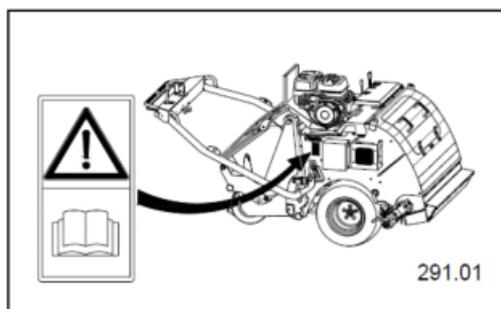
警告マーク



危険を示す警告マークは本機のいくつかの重要箇所には貼り付けてあります。この三角形によって危険が示されています。二番目のシンボルは適切な操作方法で、ケガを防止できることを示しています。これらの警告マーク、本機への貼り付け箇所、簡単な説明は以下に記載してあります。

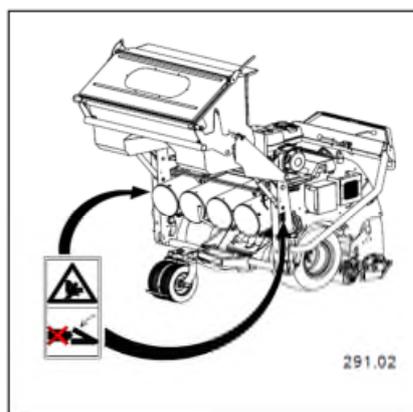
オペレーターマニュアル

オペレーターマニュアルは本機の安全な可動のために重要で必要な情報が記載しています。事故を防ぐために全ての安全指標を遵守してください。



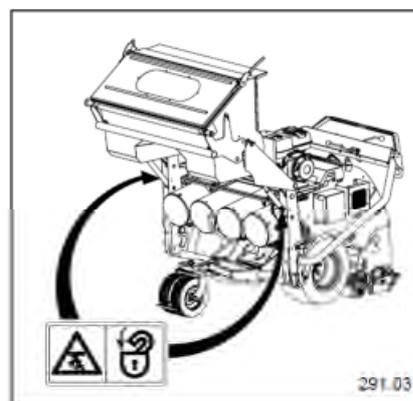
稼動範囲

部品が動いている限り、稼動箇所に近づかないでください。



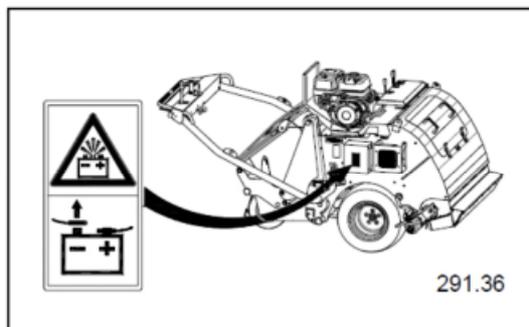
上昇したホッパー下での作業

上昇したホッパーでの作業の前には安全ロックをかけてください。



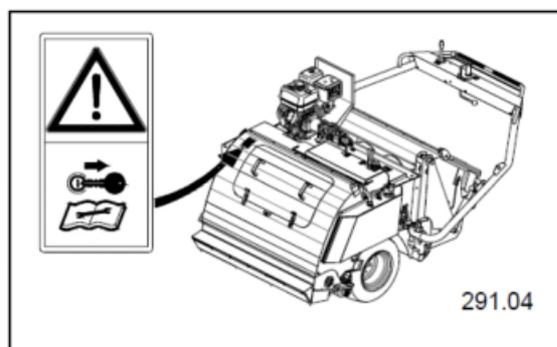
バッテリー

ケガをしないでください。バッテリーからガスが生じるかもしれません。バッテリーを火花や裸火に近付けないでください。バッテリー充電を確かめるためにバッテリー端子に金属の破片を近付けないでください。最初にアース端子を外して、最後に再接続してください。



整備

メンテナンスや修理を行う前にはエンジンを停止させ、キーを抜いてください。



1.2 安全装置

安全要件

安全に関わる注意事項を記載したステッカーは本機に付属しています。ラベルは操縦席から見えやすい箇所に貼り付けてください。

- a) 取扱説明書をよく読んでください。
- b) 安全装置がない場合は運転しないでください。
- c) 周囲に人がいる場合は運転しないでください。
- d) 未習熟者には運転させないでください。

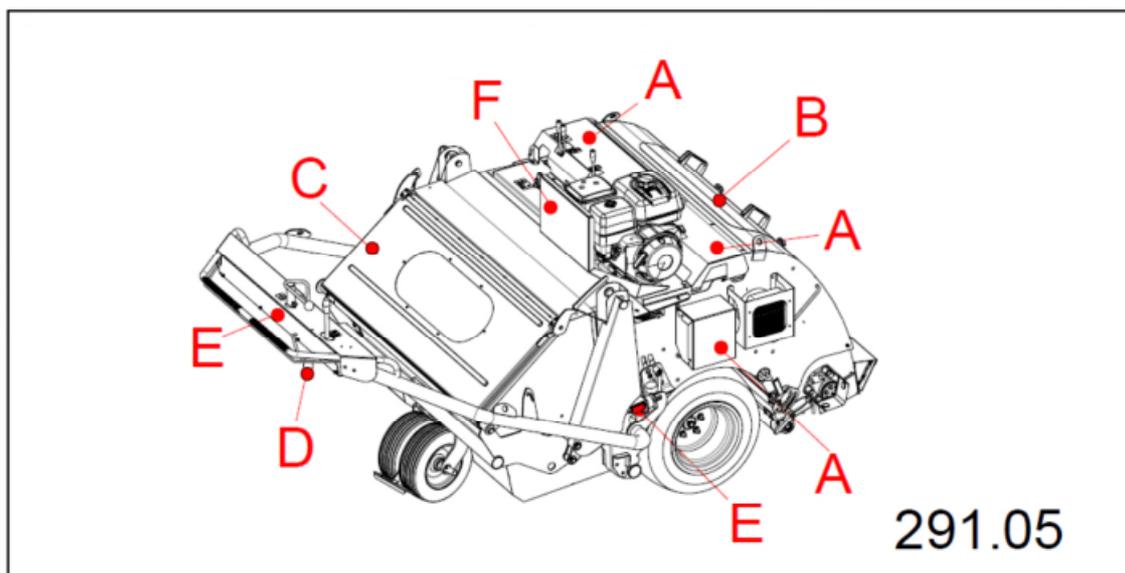


注意 危険 !

安全装置がない場合、本機を使用しないでください。あなた自身や他者に危険が及ぶ可能性があります。

⇒可動部品は深刻なケガを招く恐れがあります。

本機の安全装置を確認してください。



A= 油圧とバッテリーの保護カバー	D=ハンドブレーキ
B= 吸引口カバー取り外しには工具が必要です	E= 急な発進や稼働を防ぐためのコンタクトスイッチとエンドスイッチ
C= ホッパーカバーは上昇時のみ開きます	F= 騒音や排気ガスから操縦者を保護するための保護装置

1.3 安全指針



- これらの安全指標に加えて、一般的な安全と事故防止の基準を遵守してください。
- 全てのコントロール装置の機能を理解して緊急時に素早くエンジンを停止させる方法を覚えてください。本機を運転する前に操縦者は十分に練習してください。
- 作業場所では使用者は他者への安全に責任を持ってください。
- 停止させる前に機械の周りに子供や障害物等がないことを確認してください。あなたの視界が遮られないことを確認してください。
- 全ての人が機械の危険な箇所に近づけないでください。
- 機械の稼働や修理作業の前には必ずエンジンを切ってください。偶発的に稼働することを防ぐため、イグニッションキーを取り外してください。その他起こりうる危険は排除してください。
 - エンジン排気ガスによる一酸化炭素中毒
 - 過熱部品の接触によるやけど
 - 可動部品への接触によるケガ
- 以下のような保護装具を使用してください。
 - 作業用手袋
 - 安全靴
 - 呼吸保護装置
 - 防音保護
 - 顔、目の保護装置
- 傾斜地での作業時には最新の注意を払ってください。**斜面崩落が発生する可能性があります。**

2.0 輸送

2.1 概要



注意 危険

- 自走式機械は輸送フレームに固定された状態で配送されます。
- つり上げ能力を十分に満たしたフォークリフト、クレーンなどを使用してください。
- つり上げた物の下には立たないでください。落下する恐れがあります。

本機の不適切な輸送は以下の危険があります。

- ケガを負う
- 施設の破損

輸送フレームを使用して本機をつり上げる際は、移動方向に十分注意してください。

不適切な扱いによる損傷には責任を負いません。



注意 危険

固定バンドを外す際は注意してください。バンドが跳ね、ケガをする恐れがあります。

2.2 本機の輸送

2.2.1 フォークリフトを使用した輸送

- 輸送フレームの下にフォークを挿入してください(進行方向には注意してください)。
- 輸送フレームを注意して持ち上げてください。
- バランスを保ちながら輸送用機械から本機を降ろしてください。
- 輸送フレームの上部と側面を取り外してください。
- 固定バンドを切り離してください。
- 本機を輸送フレームから降ろしてください。

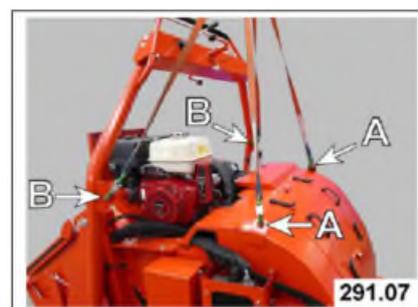


2.2.2 クレーンを使用した輸送

以下の 4 点がクレーンでのつり上げに使用されます。

Point A: スウィーピングヘッド上の 2 点

Point B: スウィーピングヘッド上の 2 点



2.2.3 トレーラーで本機の輸送

可動式カバーまたは少なくとも同じ大きさの三段階のタラップがふさわしいです。

タラップの長さは最低でも搭載箇所よりも 4 倍の高さが必要です。

滑り止めのあるタラップが必要です。

最低でも 400kg 以上の積載容量が必要です。有効幅は 30cm 以上です。



注意 危険

傾斜地で本機から離れるはハンドブレーキをかけてください。本機は制御不能になり、ケガや死を招く危険性もあります。

ケガの危険性

ハンドル(A)を引いてスウィーピングヘッドを解除してください。

スウィーピングヘッドを持ち上げてください。

緩やかな速度で前進してください。

ハンドブレーキをかけてください。スウィーピングヘッドを下げてください。

エンジンを停止させ、イグニッションキーを抜いてください。

本機を固定してください。

本機を降ろす際は逆の手順で行ってください。



2.2.4 トレーラー輸送時の締め具取り付け位置

固定バンドを対角線上で交差するように均等に締め付けてください。

側面のベルトフックポイント

後方のベルトフックポイント



2.3 本機の牽引

牽引ロープを締め、シャックルはステアリングホイール上の固縛箇所にフィットさせてください。



ステアリングバーをスウィーピングヘッド側に回転させてください。

操縦者は緊急事態にハンドブレーキを操作できるように牽引時は本機から離れないでください。



3.0 はじめての作業前に

3.1 概要



注意:

本機の作業、調整前にはエンジンを切った状態でなければなりません。偶発的な発進をしないようにイグニッションキーは抜いてください。

ケガの危険性

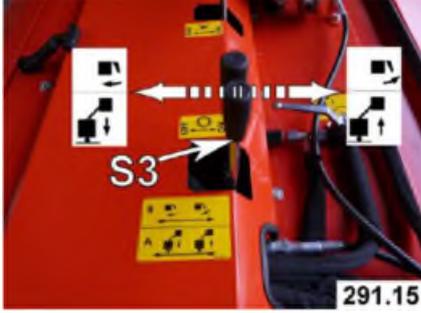


注意:

本機を公道で走行させることはしないでください。

全てのコントロール装置の機能を把握し、緊急時に直ちにエンジンを停止させる方法を覚えてください。操縦者は本機を使用する前に十分に習熟してください。

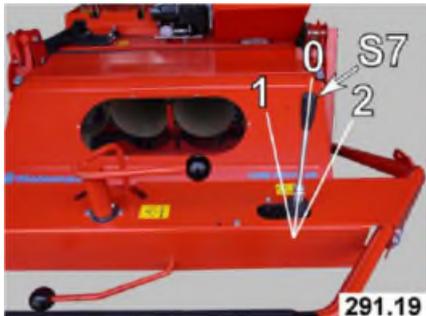
3.2 コントロール装置

<p>シリンダーブルームを動かすコントロールレバー (S1)</p> <p>“ON”スイッチ</p> <p>“OFF”スイッチ</p>	 <p>291.13</p>
<p>ドラムスクリーンのオンとオフを切り替えるコントロールレバー (S2)</p> <p>“ON”スイッチ</p> <p>“OFF”スイッチ</p>	 <p>291.14</p>
<p>ボールバルブ (S4) と共にホッパー内を空にするコントロールレバー (S3)</p> <p>機能 A: ホッパーの昇降</p> <p>機能 B: ホッパー内を空にするために傾け、カバーを開ける</p> <p>ホッパーを揺さぶり、カバーを閉める</p>	 <p>291.15</p>

<p>ボールバルブ(S4)</p> <p>A の位置: ホッパーの昇降</p> <p>B の位置: ホッパー内を空にするために傾け、カバーを開ける</p> <p>コンテナを揺さぶり、カバーを閉める</p>	
--	--

<p>駆動装置(作業位置のステアリングバー)</p> <p>コントロールレバー(S6)前進は“A”方向</p> <p>コントロールレバー(S6)後進は“B”方向</p> <p>安全装置(S5)はハンドル方向に手動で引いてください。</p>	
---	---

<p>駆動装置(作業位置のステアリングバー)</p> <p>コントロールレバー(S6)前進は“A”方向</p> <p>コントロールレバー(S6)後進は“B”方向</p> <p>安全装置(S5)はハンドル方向に手動で押ししてください。</p>	
--	--

<p>スウィーピングヘッドの昇降</p> <p>コントロールレバー(S7)を押します</p> <p>Pos.0</p> <p>Pos.1 スウィーピングヘッド上昇</p> <p>Pos.2 フローティングポジション</p>	
---	--

ハンドブレーキ(S8)

ブレーキをかけるには 180° 左へ

ブレーキを解除するには 180° 右へ

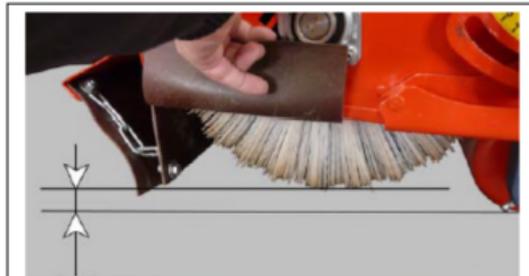


3.3 ブラシの調整

シリンダーブroomと前壁との距離は 3~4 mm にしてください。

地面とシリンダーブroomとの距離(X)は最低でも 10 mm は確保してください。

平らで舗装されたところで調整を行ってください。

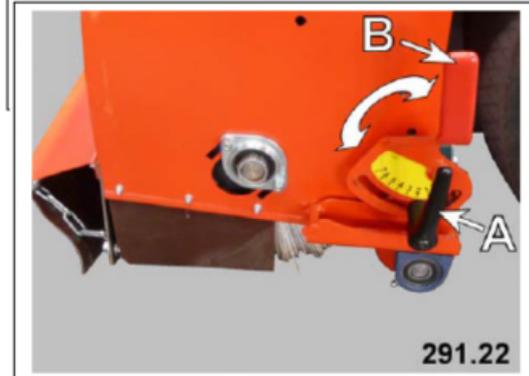


両側のクランピングレバー(A)を解除してください。

調整レバー(B)でローラーの昇降をしてください。

クランピングレバー(A)を締めてください。

数メートル動かしてから、再度調整を確認してください。



3.4 安全ラッチ



注意:

上昇したコンテナで作業する前にコンテナが落下することを防ぐために安全ラッチが接続してください。

ケガの危険性

- 高い位置での廃棄作業時はコンテナを完全に上昇してください。
- ボールレバーを後ろに引き、右に 90° 回転させてください。
- コンテナを解除するためにボールレバーを後ろに引き、後ろに 90° 回転させてください。



3.5 ドラムスクリーンの調整

ポジション T1: 初期ポジション

ポジション T2:

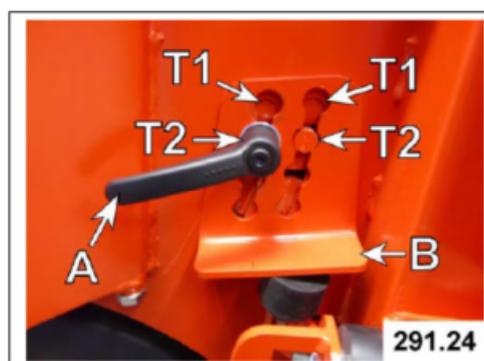
- コアが非常に乾燥していて、少ない場合
- 振るい度合い小
- コアの回収または起伏のある作業地

1. コントロールレバーS1でシリンダーブームを止めてください。
2. コントロールレバーS2でドラムスクリーンを止めてください。
3. ステアリングバーを反対側へ旋回してください。
4. エンジンを止めてください。
5. ハンドブレーキをかけてください。

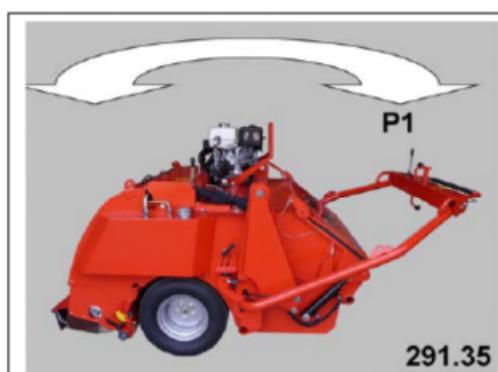


ポジション T1 からポジション T2 への切り替え

6. 片側で留め置きプレート(B)がポジション T2 になるまで切り替えネジ(A)を緩めてください。
7. 切り替えネジ(A)を締めてください。
8. 反対側の調整を行ってください。
9. 切り替えネジ(A)を留め置きプレート(B)が緩むまで締めてください。
10. ステアリングバーを反対方向に旋回してください (作業地 P1)。

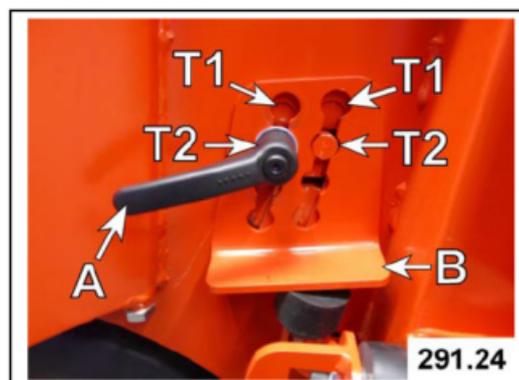


11. 切り替えネジ(A)を緩めてください。
12. ステアリングバーの金属バッファーがリセットされるまで手で留め置きプレート(B)を押してください。
13. 両方の切り替えネジを締めてください。

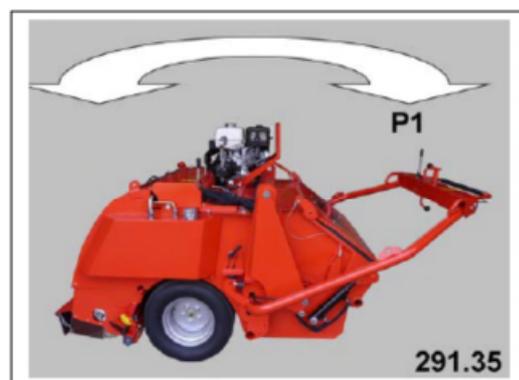


ポジション T2 から T1 への切り替え

14. 両側の切り替えネジを緩めてください。
15. 留め置きプレートをポジション T1 に変更してください。
16. 同時にドラムスクリーンを下へスライドできます。
17. 切り替えネジ(A)を留め置きプレート(B)が緩むまで締め込んでください。



18. ステアリングバーを作業位置 P1 に旋回させ、同時にドラムスクリーンを必要な位置まで上昇させてください。
19. 両側の切り替えネジ(A)を締め込んでください。



3.6 ドラムスクリーンの挿入

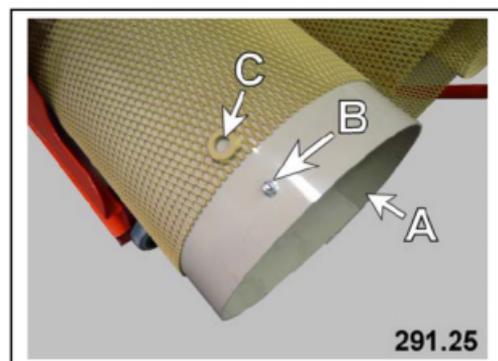
収集された材は直接運ばれ、インサートによって廃棄物コンテナにふるい落とされます。

注意:

許容の総重量と車軸荷重を遵守してください。

インサート(A)を巻き上げます。この際六角ナット(B)が外側を向くようにしてください。

巻き上げたインサート(A)を各ドラムスクリーンに押し込み、くぼみ(C)にナット(B)をはめ込んでください。



3.7 エンジン駆動

ホンダのエンジンを扱い、稼働や調整するうえで必要な情報は本書の取扱説明書に記載してあります。ホンダエンジン納入時に以下の文書が記載されております。

1. 取扱説明書
2. 保証内容
3. 製造元の申告

4.0 オペレーション

4.1 概要

注意！

自走式機械は公道で走行させないでください。

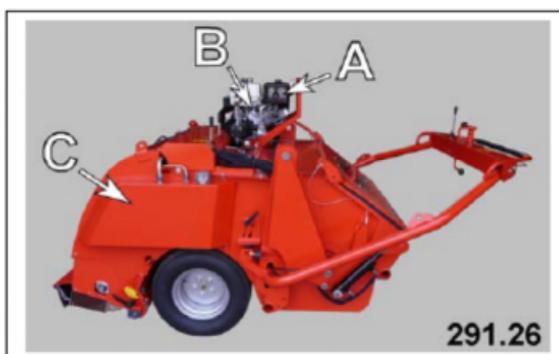
エンジンの排気ガスは有毒な一酸化炭素を含んでおります。機械を密閉された場所で稼働させないでください。

ガソリンは可燃性で爆発する可能性があります。エンジンを停止させて燃料補充の際は冷却してください。排気筒でやけどをする恐れがあるので、エンジン稼働中には触れないでください。

4.2 過熱部分

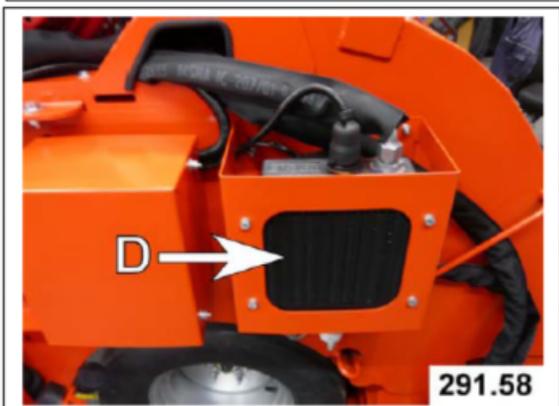
以下部品は稼働時に過熱します。

- 廃棄システム(A)
- エンジンケース(B)
- オイルタンク(C)
- オイルクーラー(D)



過熱部分からは安全な距離を保ってください。

保護グローブを装着してください。



4.3 本機の作業



注意：

- 本機を傾斜地に停車しないでください。
- 公道を輸送する場合は本機をトレーラーに乗せてください。
- 本機を人に運転させる場合、使用方法を指導して本書を通読させるようにしてください。
- 本機の操作方法や安全ラベルを熟知していない者には本機を運転させないでください。
- 本機の操作方法が未習熟の者が運転すると事故につながります。
- 本機は傾斜地での作業に適していません。
- 傾斜、勾配、土壌、芝の状態などが原因で本機が停止、転倒し、ケガを招く可能性があります。
- 本機を傾斜地で作業する場合、危険な作業であることを認識してください。10°以上の傾斜では使用しないでください。

4.4 接続作業

注意:

進行方向と速度を操作するコントロールレバー(S6)は0の位置でなければなりません。

エンジン製造元指導書からの抜粋:

燃料バルブを開いてください。

チョークレバーを閉めてください。

スロットルを1/3に調整してください。

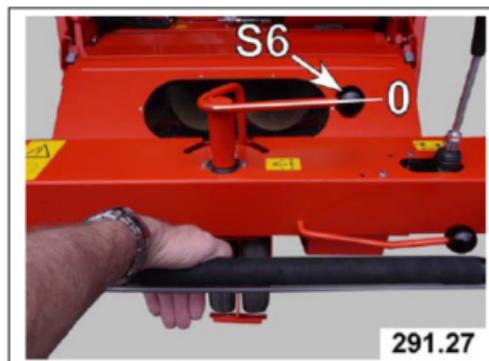
モータースイッチをオンにしてください。

イグニッションキーをSTARTにして、エンジンがかかるまで固定してください。

エンジンがかかったらイグニッションキーがオンになるように戻してください。

チョークレバーを開くために徐々に後ろにセットしてください。

動力が最大になるようにスロットルをフルスピードにしてください。



4.5 運転時注意

運転速度は0~6km/時

本機が転倒しないように注意してください。

本機を10°以上の傾斜地で使用しないでください。本機を地面と水平にして運転してください。

斜面に沿って運転しないでください。**転倒の危険性!**

4.6 安全な停止



注意:

- 本機を停止した際に転倒し、周囲の人に衝突し、死を招く可能性があります。
- 本機は安定して水平な場所に停止させてください。
- 調整、修理、整備、洗浄前に、本機の位置を正確に確認してください。不安な場合は本機を支えるようにしてください。
- コンテナを上昇させた状態で作業する際は安全ラッチ(項目 4.4 参照)が作動していることを確認してください。



- 本機を停車する際はブレーキレバーを 180° 左に P の位置まで旋回させて、ハンドブレーキをかけてください。
- ハンドブレーキを解除するにはブレーキレバー(A)を 180° 右にしてください。
- **注意！**
本機を水平で安定した場所に停車させ、ハンドブレーキがしっかりかかっていることを確認してください。

重要：

ハンドブレーキがかかった状態で運転しないでください。ブレーキの力が激しく衰えるか、ブレーキのシステムに損傷が与えられます。

4.7 回収物の廃棄

1. コントロールレバーS1 でシリンダーブームのスイッチを切ってください。
2. コントロールレバーS2 でドラムスクリーンのスイッチを切ってください。
- 3.
4. ステアリングバーを反対側へ旋回してください。
5. スウィーピングヘッドを地面に下げてください。
6. ボールバルブ S4 は“A”の位置です。
7. コンテナを上昇するため、コントロールレバー (S3) を右に押ししてください。



注意：

本機が傾いた状態で高い位置での廃棄作業はしないでください。

転倒の危険！

8. ボールバルブ(S4)を“B”の位置にしてください。
9. 注意してコンテナを上げた状態で廃棄場所に向かってください。
10. コントロールレバー (S3) を右に押ししてコンテナを空にしてください。
11. 廃棄作業が完了したら廃棄場所から離れてください。



12. コントロールレバーS3 を左に押し、コンテナを後ろに下げてください。

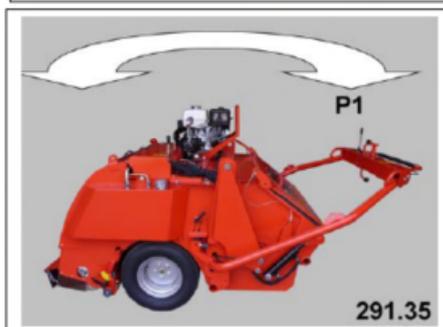


13. ボールバルブを“A”の位置にしてください。

14. ボールバルブを“A”の位置にしてください。



15. ステアリングバーを反対側に回転させてください(作業位置 P1)。



4.8 不具合とトラブルシューティング

不具合現象	原因	処置
ステアリングバーが作業位置にある時にエンジンが動かない	燃料が入っていない	必要であれば燃料を補充してください
	燃料バルブが閉じている	必要であれば燃料バルブを開けてください
	エアフィルターからの空気流入量が少なすぎる	必要であればエアフィルターを交換してください(エンジン取扱説明書を参照してください)
	コントロールレバーS6が0の位置にない	コントロールレバーを0の位置に設定してください
	汚れたコンテナが完全に閉じなかったり、ボタンが押せない	必要であればホッパーを閉めてください
	電気ケーブル、スイッチ、ボタンの不具合	専門店に問い合わせてください
	燃焼エンジン内のエンジンオイルが少ない	燃料の量を確認し、必要であればモーターオイルを補充してください(エンジン取扱説明書を参照してください)
不具合現象	原因	処置
ステアリングバーがスウィーピングヘッド方向に旋回している時にエンジンが動かず、ホッパーが閉じたままである	燃料が入っていない	必要であれば燃料を補充してください
ステアリングバーがスウィーピングヘッド方向に旋回している時にエンジンが動かず、ホッパーが閉じたままである	燃料バルブが閉じている	必要であれば燃料バルブを開けてください
	エアフィルターからの空気流入量が少なすぎる	必要であればエアフィルターを交換してください(エンジン取扱説明書を参照してください)
	コントロールレバーS6が0の位置にない	コントロールレバーを0の位置に設定してください
	スウィーピングヘッドを昇降するコントロールレバーS7がフローティングポジションにない	コントロールレバーS7をフローティングポジションに設定してください

	電気ケーブル、スイッチ、ボタンの不具合	専門店で問い合わせてください
	燃焼エンジン内のエンジンオイルが少ない	燃料の量を確認し、必要であればモーターオイルを補充してください(エンジン取扱説明書を参照してください)
	燃料が入っていない	必要であれば燃料を補充してください
コンテナを空にするためにステアリングバーを旋回させた際にエンジンが稼働せず、コンテナは開いた状態	燃料バルブが閉じている	必要であればバルブを開けてください
	エアフィルターからの空気流入量が少なすぎる	必要であればエアフィルターを交換してください(エンジン取扱説明書を参照してください)
	コントロールレバーS6が0の位置にない	コントロールレバーS6を0の位置に設定してください
	スウィーピングヘッドを昇降するコントロールレバーS7がフローティングポジションにない	コントロールレバーS7をフローティングポジションに設定してください
	ドラムスクリーンのコントロールレバーS2がスイッチ入っている状態	スイッチをオフにしてください。
	電気ケーブル、スイッチ、ボタンの不具合	専門店で問い合わせてください
	燃焼エンジン内のエンジンオイルが少ない	ディップスティックで量を確認し、必要であれば補充してください(エンジン取扱説明書を参照してください)

不具合現象	原因	処置
コントロールレバーS6が駆動装置によって作動している時にエンジンが停止する	セーフティーバーS5が固定されていない	セーフティーバーS5を固定してください(項目6.2.を参照)
	ハンドブレーキがかかっている	ハンドブレーキを解除してください
	電気ケーブル、スイッチ、ボタンの不具合	専門店で問い合わせてください
コントロールレバーS3が作動している時にエンジンが停止する	ステアリングバーが作業位置にある	ステアリングバーをスウィーピングヘッド側に旋回してください
	バイパスのスイッチがオフ	バイパスレバーを動かしてください(項目3.3.参照)
	ハンドブレーキ(S8)がきいてい	ハンドブレーキ(S8)を解除してくださ

コントロールレバーS6 が駆動装置で作動している時にホイールが回転しなかったり、駆動装置が十分な動力を供給しない	る	い
	バンドブレーキの故障	バンドブレーキを解除し、再調整してください(項目 8.9.参照)
	油圧リザーバー内のオイル量が少なすぎる	燃料スクリーンで量が確認できるまでオイルを補充してください
	油圧オイルが高温すぎる	オイルクーラーのファンホイールが正常に作動していることを確認してください
	オイルクーラーモーターや電気ワイヤーの欠陥	専門店で問い合わせてください

不具合現象	原因	処置	
材の分類時にコアがシリンダーブームから限られた量だけしか収集されない	シリンダーブームの速度が遅すぎる	油圧オイルが作業温度に達していないことにより、シリンダーブームの油圧モーターの回転が遅い	
		モーターの通常速度を確認してください 必要に応じて最大 3300 回転に設定してください(モーター取扱説明書を参照してください)	
		スウィーピングヘッドの後部カバーに固まった土を後部カバーブラシホルダーの洗浄器具を使用して洗浄してください	
		シリンダーブームの設定が低すぎる	フィーラーローラーを使用するシリンダーブームの調整(項目 6.3 参照).
		シリンダーブームの設定が高すぎる;コアがブラシで収集できない	フィーラーローラーを使用するシリンダーブームの調整(項目 6.3 参照).
		作業場所が不適切 芝が長すぎるかもしれない	特定の使用時は注意してください ("はじめに"を参照)
		シリンダーブームのブラシ摩耗により前壁と距離がある(10 mm以上)	シリンダーブームと前壁の間の距離を 3~4 mmに調整してください 必要であれば、シリンダーブームを交換してください(項目 8.19.参照)
駆動ホイールがロックされていて本機を牽引できない	バイパスのスイッチがオフ	バイパスレバーを動かしてください(項目 3.3.参照)	

ハンドブレーキをかけているにも関わらず、回転し続ける	バンドブレーキとディスク間が広すぎる	許容範囲を確認し、必要であればブレーキケーブルを使いながら調整してください(項目 8.9.参照)
駆動スイッチがオンになっている時にドラムスクリーンが動かない	ドラムスクリーンが誘導装置に正しく挿入されていない	コンテナを上昇して、ドラムスクリーンが正しく取り付けられていることを確認してください(項目 8.6 参照)
不具合現象	原因	処置
材収集時にコアがシリンダーブルームから限られた量だけしか収集されない	収集した材とコアが湿っぽい	収集した材を更に乾燥させてください
	シリンダーブルームの速度が遅すぎる	油圧オイルが作業温度に達していないことにより、シリンダーブルームの油圧モーターの回転が遅い
		モーターの通常速度を確認してください 必要に応じて最大 3300 回転に設定してください(モーター取扱説明書を参照してください)
		スウィーピングヘッドの後部カバーに固まった土を後部カバーブラシホルダーの洗浄器具を使用して洗浄してください
	シリンダーブルームの設定が深すぎる	フィーラーローラーを使用するシリンダーブルームの調整(項目 6.3 参照).
	シリンダーブルームの設定が高すぎる 収集物がブラシで集まらない	フィーラーローラーを使用するシリンダーブルームの調整(項目 6.3 参照).
	作業場所が不適切 芝が長すぎるかもしれない	特定の使用時は注意してください (“はじめに”を参照)
	シリンダーブルームのブラシ摩耗により前壁と距離がある(10 mm以上)	シリンダーブルームと前壁の間の距離を 3~4 mmに調整してください 必要であれば、シリンダーブルームを交換してください(項目 8.19.参照)
	収集する材やコアが湿っている	材をもっと乾燥させる
	速度が速すぎる	速度を下げる
	材やコア収集速度が速すぎる	

	ドラムスクリーンの開口が妨げられている	
--	---------------------	--

5.0 メンテナンス

5.1 概要



注意 危険

熟練者のみ整備、修理、解体を行ってください。不具合の修理と同様に、整備、洗浄などはする際、機械は常に水平で舗装された場所で行い、転倒しないようにしてください。

コンテナを上昇させた状態での作業は必ず安全ラッチを作動させてください(項目 8.3.参照)。コンテナが突然落下し、ケガをする恐れがあります。

本機の稼働、修理をする前にはエンジンは必ず切ってください。偶発的に稼働することを防ぐためにイグニッションキーは取り外してください。このようにして起こりうる危険性を排除してください。

- エンジン排気ガスによる有毒一酸化炭素
- 過熱部品への接触によるやけど
- 可動部品への接触によるけが

作業時には以下のような保護装置を装着してください。

- 作業用グローブ
- 安全靴
- 防音装置
- 顔や目の保護器具

純正部品のみを使用してください。他社が製造した部品は粗悪な場合があり、危険を及ぼす可能性があります。保証の継続と正しい認識による保証請求は当社の純正部品を使用する場合にのみ適用されます。

弊社から供給されていない部品は弊社の安全テストや承認がなされていないことを理解し、注意してください。そのような製品の使用は自走機械の構造上によくない影響があり、安全上問題をきたすおそれがあります。

純正ではない部品の使用で生じる損傷は、製造元の責任が責任を負いかねます。

整備の後は自走機械に付属しない全ての部品を取り外してください。全ての保護カバーを取り付けてください。ホンダのエンジンの整備に関する情報は同封されている取扱説明書を参照してください。

5.2 整備と点検項目

整備頻度	箇所	整備内容
毎日	機械全体	本機の洗浄(項目 8.5. 参照)
	スウィーピングヘッド	洗浄器具で洗浄(項目 8.5. 参照)
	油圧ホース	オイル漏れ点検
必要に応じて	スウィーピングヘッドの後ろ	濡れた状態で、洗浄器具を使用して複数回洗浄
	ホイール	タイヤの空気圧を確認し、必要に応じて調整してください(項目 8.18. 参照)
毎週	ドラムスクリーンギアリングとギアホイール	ギアホイールの形状を確認してください(項目 8.6.参照)
毎年	機体	性能維持
300 時間 または 36 時間	オイルタンク内の油圧オイル	油圧オイル排出しをタンクに再補充してください
	ホンダ-エンジン	ホンダエンジンの整備に必要な情報は同封の取扱説明書に記載されています

5.3.安全ロック機能(ホッパー上昇時)



注意

コンテナ上昇時に作業する前にはコンテナが偶発的にラックすることを防ぐための安全ロック機能が接続されていなければなりません。

ケガの危険性！

- 高い位置での廃棄作業時はコンテナを完全に上昇させてください。
- ボールバルブレバーを後方へ引き、外側に 90° 回転させてください(図 398.29 参照)。
- ボールバルブレバーを後方へ引き、コンテナを解除するために後方へ 90° 回転させてください。

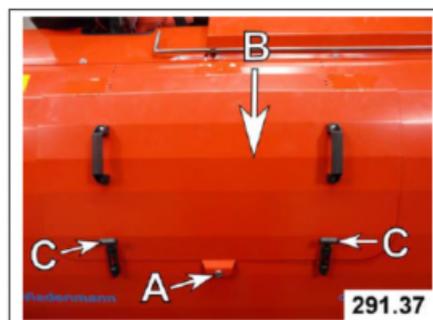


5.4 クリーニングフラップの取り外し

固定スクリュー(A)を緩めてください。クリーニングフラップ(B)は簡単にスウィーピングヘッドを下げることができます。ラバーの留め具(C)を外してください。

固定スクリュー(A)をフラップ(B)に固定してください。上部のフラップを引っ掛け、固定スクリュー(A)をしっかりと固定してください。

ラバーの留め具(C)を引っ掛けてください。



5.5 本機の洗浄



注意

洗浄はハンドブラシと水を使って行ってください。

-素手で行わないでください

ケガの危険性！

次回速やかに使用できるように、毎日作業終了後には本機を洗浄してください。

主な洗浄箇所は以下の通り:

- シリンダーブルーム
- スウィーピングヘッド経路
- コンテナ内のドラムスクリーン
- ドラムスクリーン用ブラシ
- 濡れた地面での作業後には経路の入り口を確認し、必要に応じて接城してください

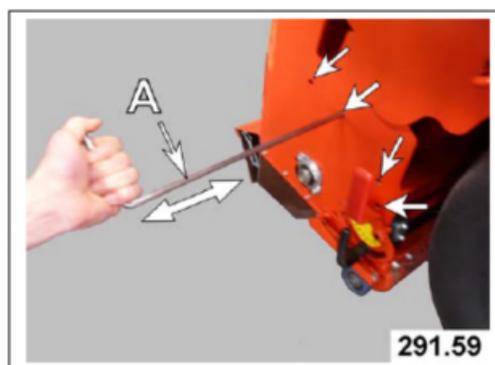
専用器具を使用した洗浄

洗浄しにくいスウィーピングヘッドの後方は洗浄器具(A)を使用して洗浄することができます。

洗浄器具(A)を穴の両側に通してください。

洗浄器具(A)を前後に動かすことで滞留している材を取り除くことができます。

スチームジェットで洗浄するためにpスウィーピングヘッドを積み込み位置に持ち上げることができます。



5.6 ドラムスクリーンの洗浄

作業時には保護器具を装着してください

ステアリングバーをスウィーピングヘッド側に旋回してください。

ハンドブレーキをかけてください。

ホッパーを上昇させ、安全ラッチを作動させてください(項目 6.3 参照)。

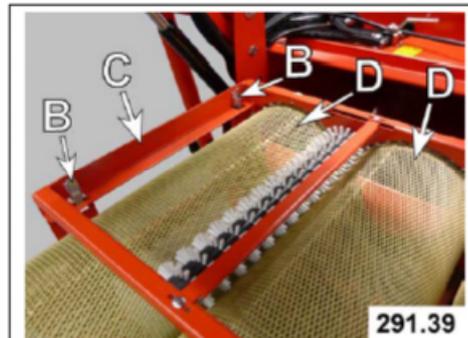
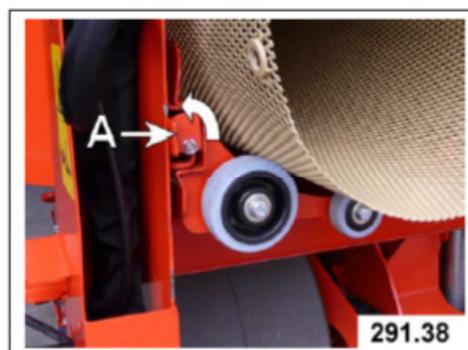
エ

ンジンを停止させて、イグニッションキーを外してください。

安全アングル(A)を外側へ動かしてください。

テンションロック(B)を緩めてください。

ドラムブラシ(C)を少し持ち上げて取り外してください。



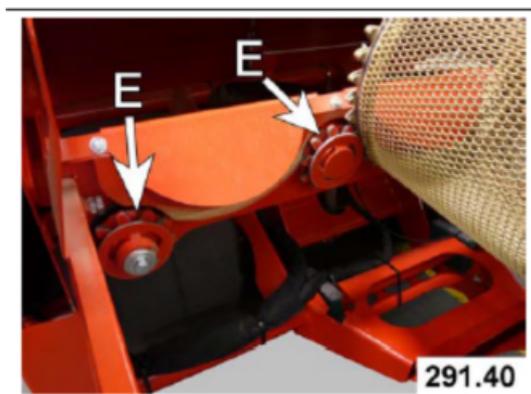
作業の際は、適切な防護装置を身につけて臨んでください。

ステアリングハンドルを吸込口側に切り替えてください。

ハンドブレーキをかけてください。

ホッパーを上げ、安全ラッチをかけてください。(6.3 参照)

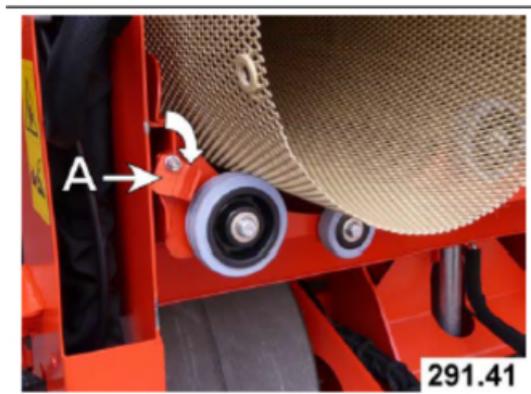
エンジンを切り、イグニッションキーを抜いてください。



安全アングルを外側にずらしてください。(A)

テンションロックをはずしてください。(B)

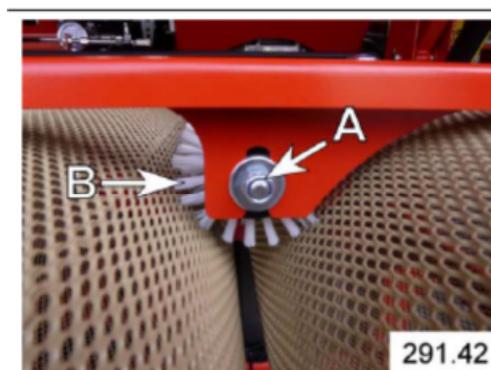
ドラムブラシを上げ、取り外してください。(C)



5.7 ブラシの調整

両サイドの六角ナット(A)を緩めてください。

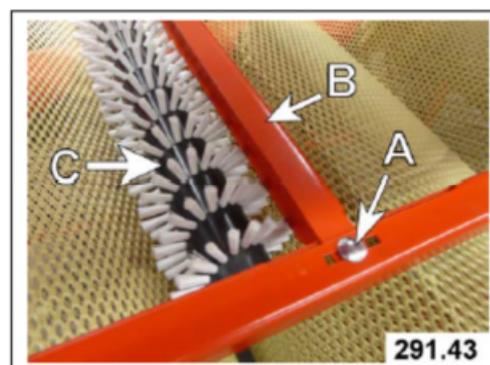
ブラシ全長(B)がドラムスクリーンに対して軽く押し付けられる状態に設定し、ナット(A)を閉めこんでください。



5.8 スクレーパー調整

固定スクリューAをはずしてください。

スクレーパーBをブラシCに対して、ブラシの毛先がスクレーパーに軽く触れるところまでずらしてください。



5.9 ハンドブレーキの調整

ステアリングハンドルを作業ポジションに切替え、機械を安全な(平らな)場所で停車させてください。

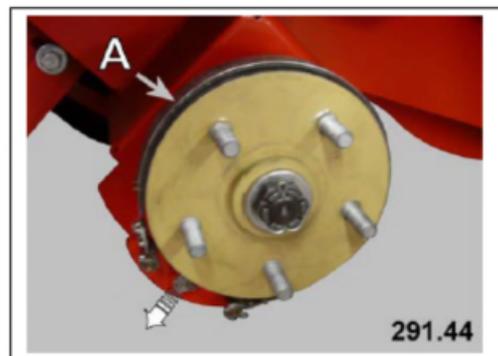
駆動輪をはずしてください。

ブレーキパッド(A)はハンドブレーキを解除すると抵抗無く動くはずです。

万が一ブレーキパッドがゆるすぎたり、ブレーキのかかりが弱い場合は、

ロッドを調整して、ハンドブレーキを調整できます。

調整スクリューはステアリングハンドルの下、ドラムスクリーンフレーム上にあります。



5.10 バッテリーの点検、充電



注意 危険!!!

不適切に取り扱くと、バッテリーが爆発する可能性があります。

たとえば、異なる極性に接続したり、触れてしまったりすると爆発する可能性があります。

これは、深刻な怪我や火傷に至る可能性があります。

バッテリーを長く充電していると水素が発生します。その状況で火花が散ると着火する可能性があります。

バッテリー爆発により怪我をし、飛び散った酸で深刻な火傷を負うこととなります。

—バッテリー状態を確認する際は、正常なテスターを使用してください。

—バッテリーを火や火花に近づけないでください。

—自走式機械のバッテリーは屋外で充電してください。(6.12 参照)

5.11 電気システム

埃、芝、葉をバッテリー、配線、排気マフラー、エンジンから取り除き、発火の可能性をなくしてください。

本機を長期保管し使用しない場合は、バッテリーケーブルをはずしてください。短絡や発火の恐れがなくなります。

5.12 バッテリーの取り外し、再接続

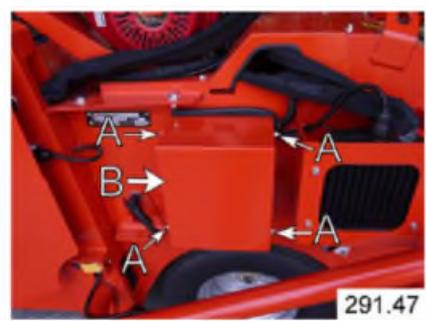
六角ナット(A)をはずし、防護カバー(B)を取り外してください。

必ず最初にアース側(—)を先に取り外してください。

テンションストラップをゆるめてください。

バッテリーを取り付ける際は、このテンションストラップをかけてください。

バッテリーを接続するときは、常にプラス側を先に接続してください。手順を誤ると、短絡または火花発生の恐れがあります。配線 A を 15A と一緒にしっかり留めてください。



5.13 潤滑

- 作業を行う前は常にエンジンを停止させてください。
- 潤滑ポイントが十分グリスアップされるまで注油してください。必要があれば回数を増やしてください。
- 常に、外にむき出しとなっている部分、ねじ山等にはうっすらと油を塗ってください。
- グリスアップする前には、グリスニップルをきれいにふき取ってください。
- 溢れたグリスはしっかりふき取ってください。
- 長期保管後に本機を再稼働させる際は必ずグリスを全てのポイントに差してください。

5.14 潤滑ポイント(週間)

右図にて→で示された場所には、1週間に1回必ずグリスを差してください。

ステアリング車輪のベアリング

ローラーのベアリング

ステアリングハンドルのベアリング



5.15 エンジンオイル交換

ステアリングハンドルを反対側に切り替えてください。
ホッパーを上げ、安全ラッチをかけ、エンジンを停止させてください。

エンジン下ドラムスクリーンの上に回収トレーをのせてください。

ドレインプラグ(A)をはずしてください。

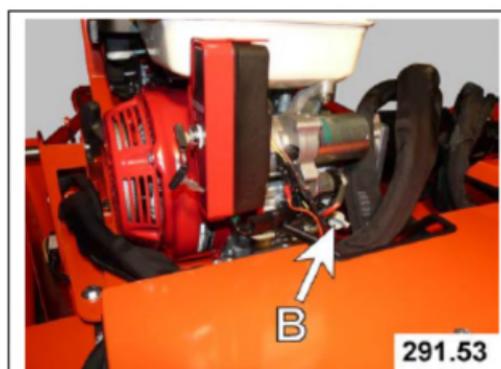
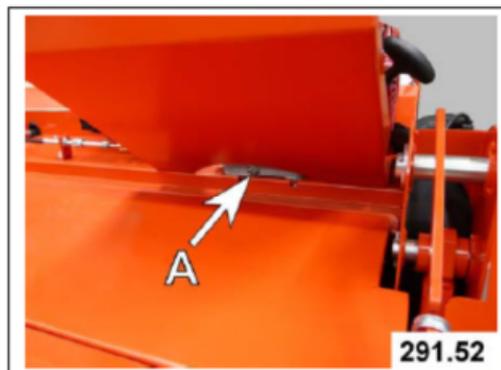
オイルフィルター(B)からキャップをはずしてください。

ドレインプラグ(A)をオイルを入れる前にはめてください。

オイルの量、種類については、ホンダエンジン説明書を参照してください。

重要:

オイルの廃棄については、地方自治体、国の規定に従ってください。



5.16 油圧オイルの交換

オイルタンク下に回収トレーをおいてください。

ドレインプラグ A をはずしてください。

オイル注入前にプラグ A をはめてください。

約 18 リットルのオイルをスクリーンの位置でオイルが確認できるまで注入してください。



5.17 油圧システムのメンテナンス

油圧ホースに傷はないか、劣化していないかこまめに確認し、必要に応じて交換してください。

ホースメーカー推奨に基づき、油圧ホースは3年ごとに交換してください。



注意！

油圧ホースは、バイオオイルには対応していません。



注意！

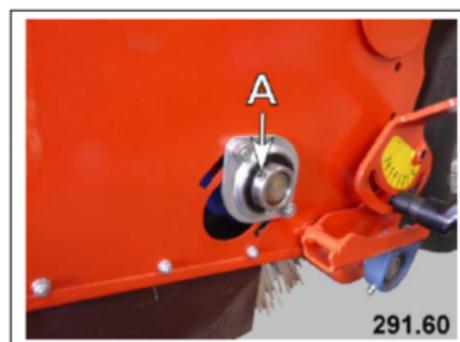
高圧状態で漏れたオイルは、皮膚に侵入し、深刻な怪我をまねく可能性があります。このため、ホースをはずす前に必ず圧力を抜くようにしてください。油圧システムを再度加圧する前に、全ての接続ポイントがしっかり締めこまれているか確認してください。小さな亀裂や孔から流出するオイルは確認が難しいため、確認の際は布や、紙を確認箇所にあてがい、オイルが無いか確認してください。手や体を高圧オイルから保護してください。

オイルが皮膚の中に侵入した場合は、ただちに専門医にかかって治療を受けてください。

さもないと、深刻な事態を招く恐れがあります。

5.18 ブラシの脱着

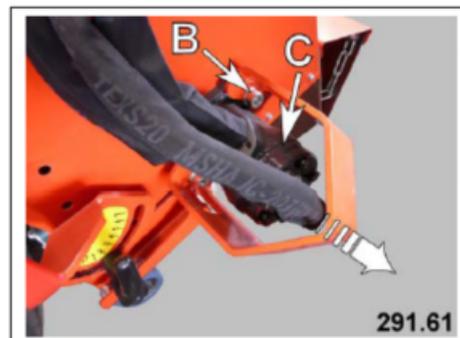
セットスクリュー(A)をはずしてください。



シリンダーヘッドスクリュー(B)をはずしてください。

スパーピングヘッドロックを解き、最上位置まで上げてください。

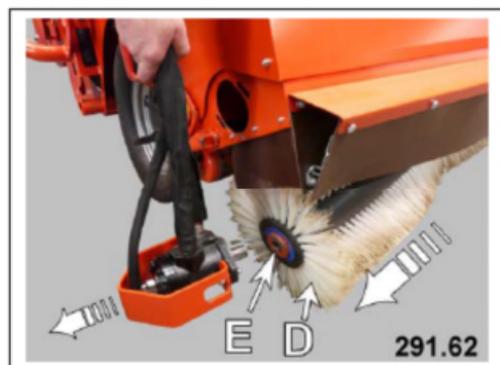
油圧モーター(C)を外側にはずしてください。



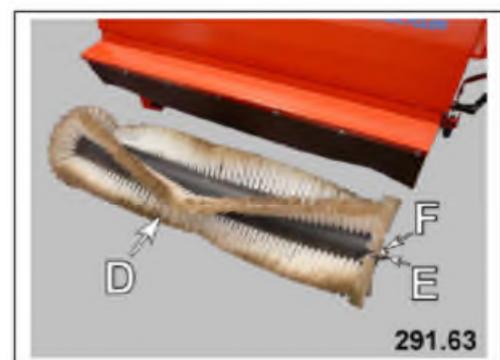
ブラシシリンダー(D)を下側に引抜いてください。
ブラシを交換してください。

注意:

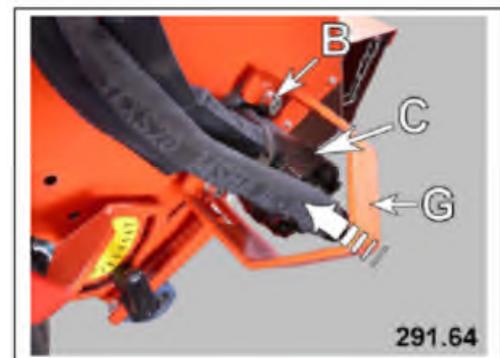
ドライブシャフトをブラシに差し込むときは、正しい位置
をあらかじめ確認してください。



スペーサーリング(F)をブラシ大径側にはめてください。
ブラシはエンジン側から差し込んでください。



油圧モーター(C)をブラシシャフトに装着してください。



5.19 ウィールとタイヤ

タイヤ空気圧を定期的に確認してください。

駆動タイヤ: 0.8bar/12psi

ステアリングウィール: 1.4bar/20psi



注意:

タイヤバーストにより、またそれに伴うリム周辺部部品の飛散により深刻な命にかかわる怪我を負う恐れがあります。適切な道具と経験がある場合のみ、タイヤ交換を行ってください。

常に推奨空気圧を守ってください。決して推奨圧以上の空気を注入しないでください。

ウィール、タイヤに熱を加えないでください、また溶接しないでください。タイヤを熱すると内包する空気圧が高まりバーストする恐れがあります。溶接は、ウィールの変形、破損をまねく恐れがあります。

空気を注入するときは、注入機を接続する場所に安全装置を取り付け、十分な長さのホースを用いてください。万が一バーストした際に、反対側に常に立つことができます。決してタイヤ正面に立たないでください。可能であれば、ケージを用いタイヤを囲ってください。

空気圧の低下、溝状態、リムの損傷、ウィールボルト・ナットの有無は毎日確認してください。

5.20 分解/廃棄



注意:

本機を分解するときは、細心の注意を払ってください。本書安全にかかわる項、所在地の規定に従って進めてください。

次のような危険が潜んでいます。

—油圧ホース、装置に圧が滞留している

—分解後に落下する重い装置がある

—鋭く、とがっている

—装置が転がり、誰かにぶつかる

廃棄のための分解

1. 本機を平らな場所に駐車してください。
2. 油圧オイルを抜き取ってください。
3. エンジンオイルを抜き取ってください。
4. タンクから燃料を抜いてください。
5. 分解は上部から下部の順に進めてください。

重要:

危険物及び汚染物廃棄にあたり遵守すべき法律、仕様を常に確認してください。廃棄の手順をしっかりと理解してから進めてください。



5.21 メーカー認定のない改造、交換部品の製造

本機への改造は、事前のメーカーからの認定のあるときにのみ認められます。

メーカーにより製造されたアクセサリ、交換部品が、安全を確保します。

その他の製造部品を用いることは本機の構成を崩します。この結果起きた問題に対しては一切責任を負いません。

6.0 仕様

6.1 納入時状態

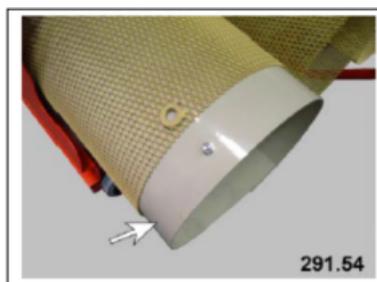
- コアリサイクラー構成
 - エンジン
 - 油圧駆動機体
 - 油圧ハイダンブ機能
 - 油圧駆動ドラムスクリーン
 - 油圧駆動回転ブラシ
 - 回収容量 400 リットル
- エンジンメーカー説明書
- 取扱説明書、保証書

6.2 付属品

ドラムスクリーンを塞ぐプラスチックシートは本機に付属しています。

装着すると本機をスィーパーとして使用することができます。

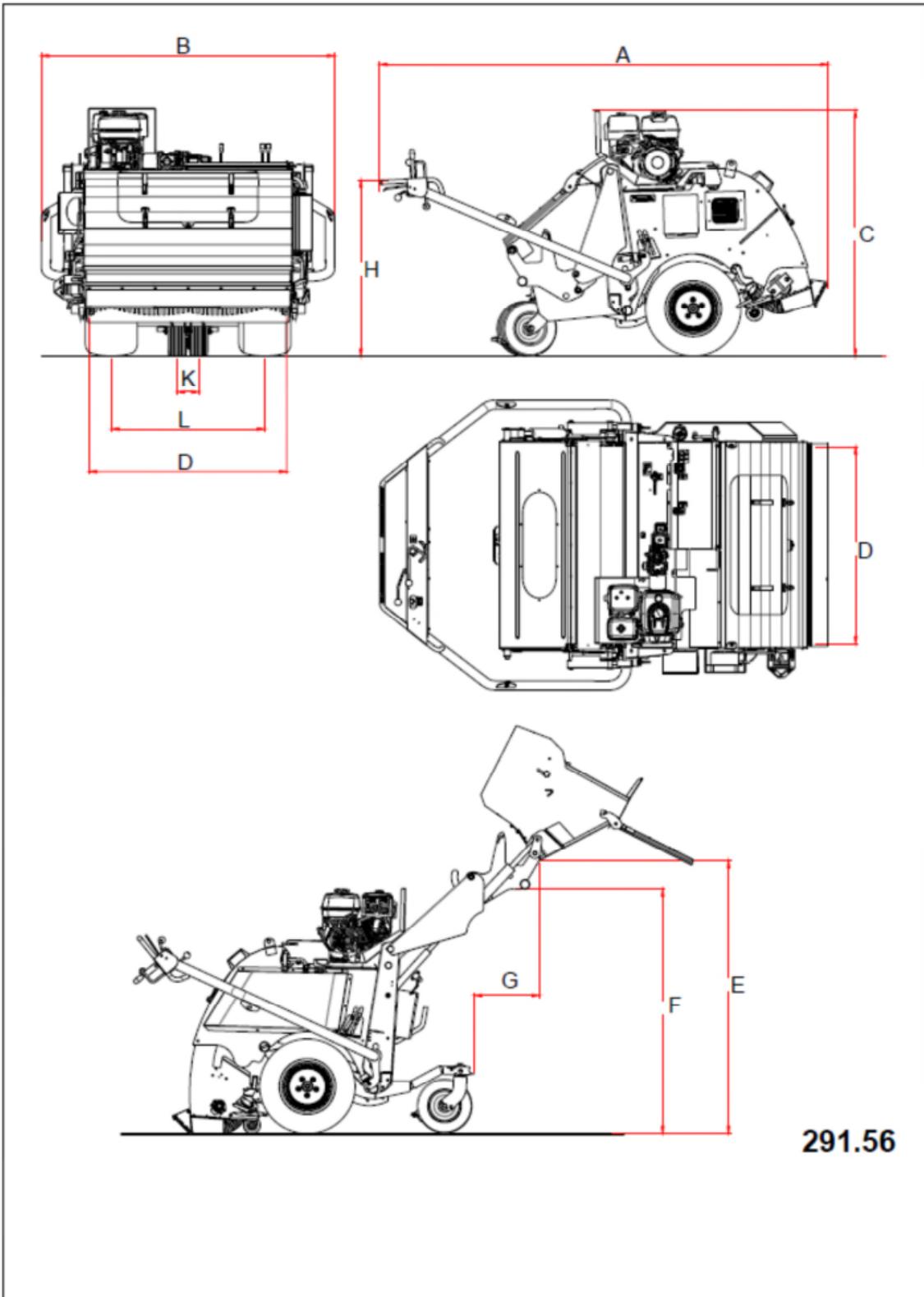
右下写真はクリーニングロッドを示しています。



7.0 仕様

7.1 データ一覧

A 全長	2720mm
B 全幅	1777mm
C 全高	1504mm
D 作業幅	1200mm
E ホッパーハイダンブ時地上高(ホッパー下側エッジ)	1635mm
F ホッパーハイダンブ時地上高(回収物廃棄時)	1465mm
G 後輪端からホッパーエッジまで	394mm
H ステアリングハンドル高さ	1065mm
エンジンモデル	ホンダ製 GX390
エンジン馬力	11.8 馬力
燃料タンク容量	6.1 リットル
エンジンオイル容量	1.1 リットル
定格回転数	3300rpm
ブラシ回転速度	850rpm
可変油圧走行	0-6km/h
作業速度	0-6km/h
油圧圧オイル容量	18 リットル
油圧オイル規格	Terectrol super 2000CD-HC 同等品
後輪タイヤサイズ	13X5.00-6 4 プライ
後輪タイヤ径	330mm
タイヤ空気圧	1.4bar/20 psi
K 後輪タイヤ間隔	130mm
前輪タイヤサイズ	24X13.00-12 4 プライ
タイヤ空気圧	0.8bar/12psi
L 前輪タイヤ間隔	930mm
ホッパー容量	400 リットル
重量	650kg
積載重量最大	180kg



291.56

7.2 締付トルク

Property Class and Head Markings	4.8		8.8		9.8		10.9		12.9							
Property Class and Nut Markings	5		10		10		10		12							
Size	class 4.8				class 8.8 or 9.8				class 10.9				class 12.9			
	Lubricated *		Dry **		Lubricated *		Dry **		Lubricated *		Dry **		Lubricated *		Dry **	
	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft
M6	4,8	3,5	6	4,5	9	6,5	11	8,5	13	9,5	17	12	15	11,5	19	14,5
M8	12	8,5	15	11	22	16	28	20	32	24	40	30	37	28	47	35
M10	23	17	29	21	43	32	55	40	63	47	80	60	75	55	95	70
M12	40	29	50	37	75	55	95	70	110	80	140	105	130	95	165	120
M14	63	47	80	60	120	88	150	110	175	130	225	165	205	150	260	190
M16	100	73	125	92	190	140	240	175	275	200	350	255	320	240	400	300
M18	135	100	175	125	260	195	330	250	375	275	475	350	440	325	560	410
M20	190	140	240	180	375	275	475	350	530	400	675	500	625	460	800	580
M22	260	190	330	250	510	375	650	475	725	540	925	675	850	625	1075	800
M24	330	250	425	310	650	475	825	600	925	675	1150	850	1075	800	1350	1000
M27	490	360	625	450	950	700	1200	875	1350	1000	1700	1250	1600	1150	2000	1500
M30	675	490	850	625	1300	950	1650	1200	1850	1350	2300	1700	2150	1600	2700	2000
M33	900	675	1150	850	1750	1300	2200	1650	2500	1850	3150	2350	2900	2150	3700	2750
M36	1150	850	1450	1075	2250	1650	2850	2100	3200	2350	4050	3000	3750	2750	4750	3500

7.3 シリアルプレート

シリアルプレートは機械右側面に取り付けられています。部品注文、保証申請の際に必要になります。あらかじめ確認をお願いいたします。

